

## 組合員WEBアンケート「あなたの声をパルシステム東京へ！2021」まとめ

パルシステム東京 機関運営室

## 1. 目的

前年度に引き続き組合員の声の集約を実施し、政策や事業の方針づくりの参考とする。

## 2. 実施概要

(1) 実施期間 2021年10月25日(月)～11月28日(日)の5週間

(2) 集約対象と広報 全組合員を対象とし、ホームページ、メールマガジン等で広報  
アンケート回答方法はインターネット限定

## 3. 参加組合員属性

(1) 参加総数、お住まい

回答数 : 9,185件

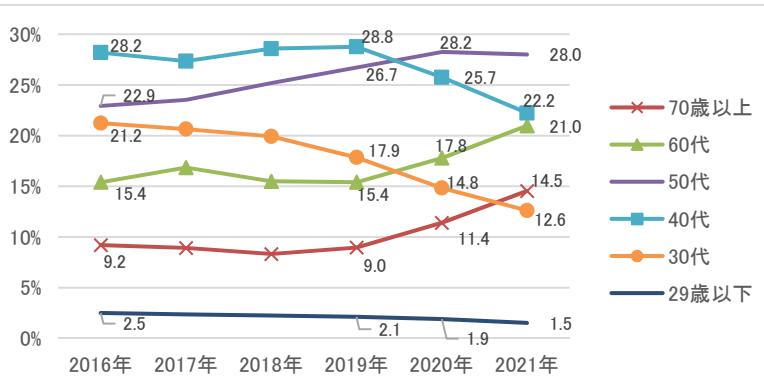
東京23区 : 約62% 東京23区以外 : 約38%

(2) アンケートの参加

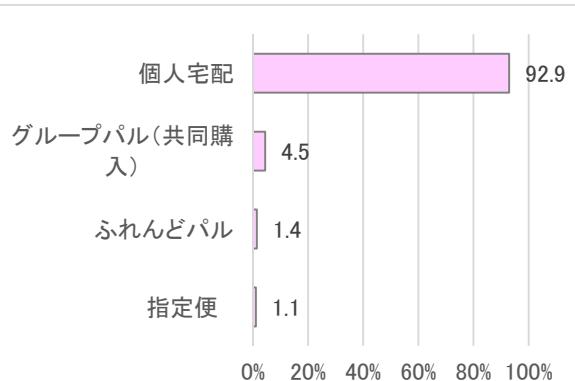
今回初めて意見を寄せた方 : 約62%

去年もしくはそれ以前に意見を寄せた方 : 約38%

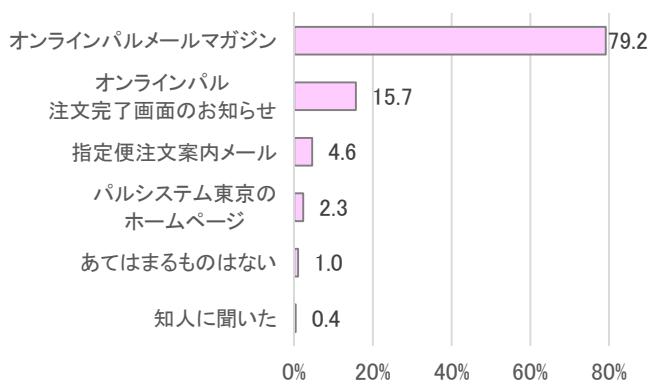
## (3) 年代構成



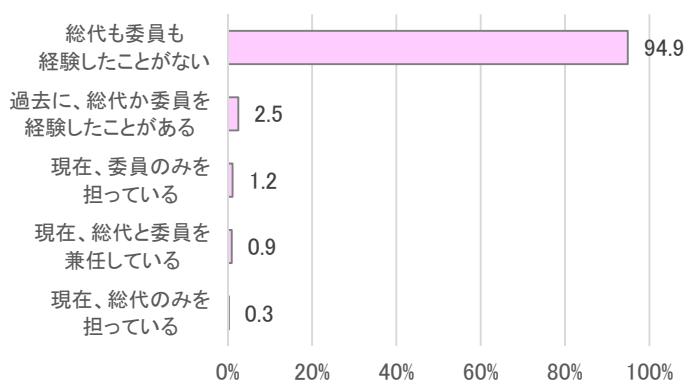
## (4) 利用形態



## (5) アンケートを知ったきっかけ (複数回答可)



## (6) 総代※1・委員の経験



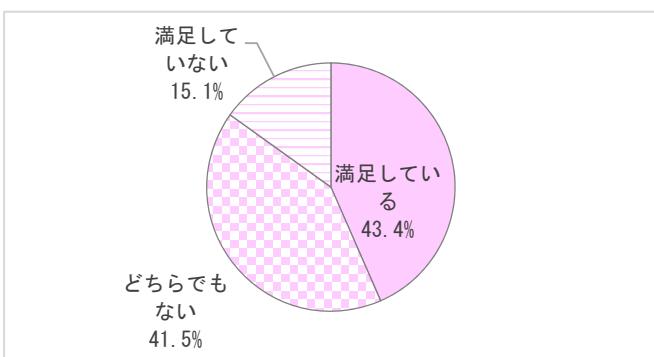
※1 総代・・・パルシステム東京の52万人の組合員から510名を、9つの地域区分ごとに選出しています。事業や組織の活動の進捗をチェックし、生協の最高意思決定機関である「総代会」でパルシステム東京の事業や組織の活動の方針を議決します。その議決に参加できるのは「総代」のみとなっています。

## &lt;参加組合員の属性について&gt;

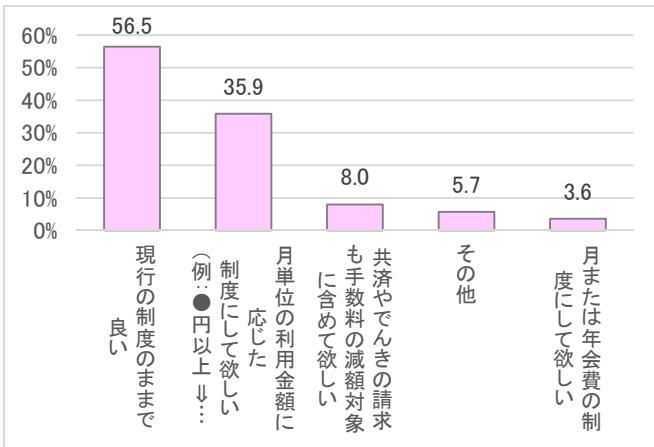
- 回答者の年代構成の推移は去年と同傾向で、40代以下は全て減少、50代はほぼ横ばい、60代以上は増加しています。特に2年前から大きく構成が動いており、30代と70歳以上では今回初めて比率が逆転（2年前は30代が70歳以上の2倍）、40代と60代はほぼ同率（2年前は40代が60代の2倍）となりました。
- 今回初めてオンラインのみでアンケートを広報しましたが、回答者の年代は上昇しました。なお「オンラインパルメールマガジン」は年代が下がるほど選択した人が多く、「注文完了画面のお知らせ」は年代が上がるほど選択した人が多くなりました。

#### 4. 回答結果 ※以下、経年比較グラフ内の数字は、最新年度のみ掲載しているものがあります。

##### 【設問1-1】パルシステムのポイント制度について、あてはまるものをお答えください

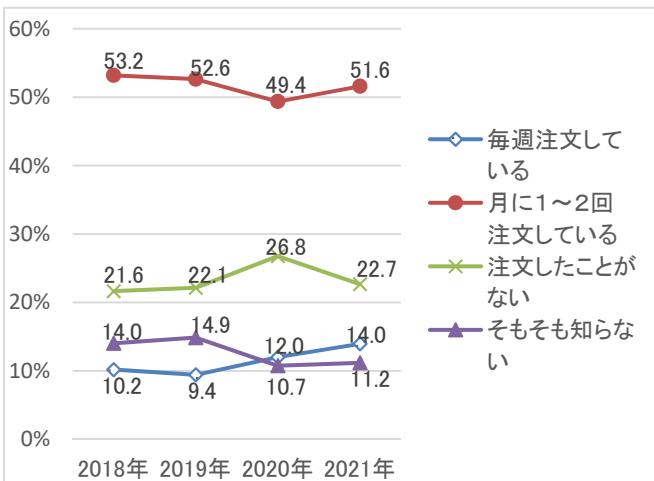


##### 【設問2】パルシステム手数料について、あてはまるものをお答えください。(複数回答可)



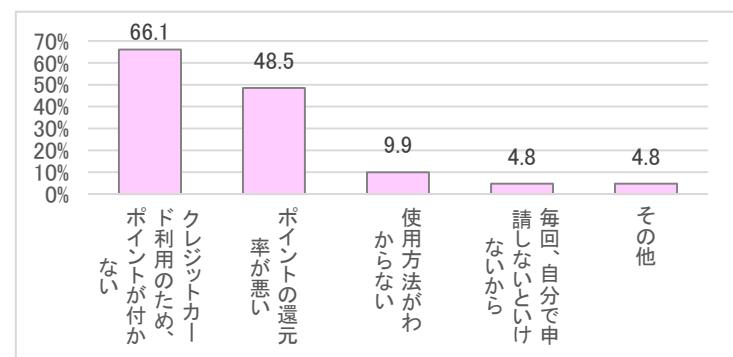
##### 【設問3】パルシステムの農産品について、お答えください

###### ①コア・フード商品を注文したことはありますか



###### ②エコ・チャレンジ商品を注文したことはありますか

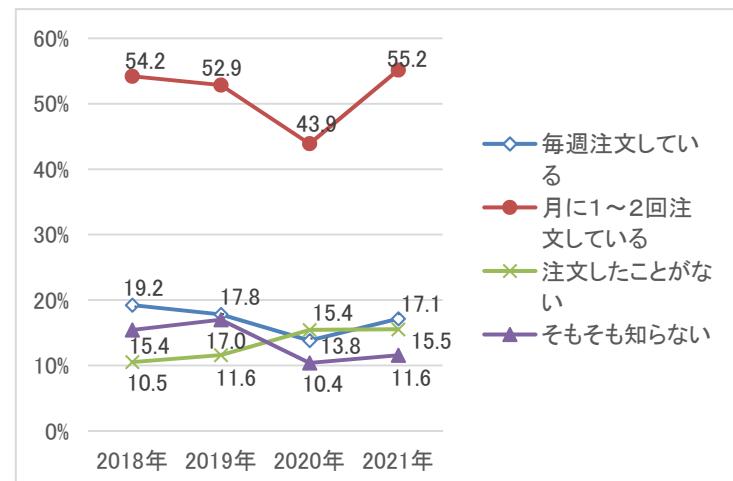
##### 【設問1-2】設問1-1で「満足していない」を選ばれた方へ、理由をお答えください (複数回答可)



- ・ポイント制度と手数料は今年からの設問です。
- ・ポイント制度は年代が上がるほど満足度が高く、40代以下では「満足している」より「どちらでもない」が高くなりました。特に20代は「満足している」が「どちらでもない」の半分でした。満足していない理由は、全世代で上記グラフ通りの順位でしたが、「使用方法がわからない」は、40代以下全ての年代で平均より高く、後述の広報媒体閲覧率が低い世代と重なっている為、お知らせには工夫が必要です。
- ・手数料は、年代が高いほど満足度が高い結果でした。手数料特典の影響があると推測されます。

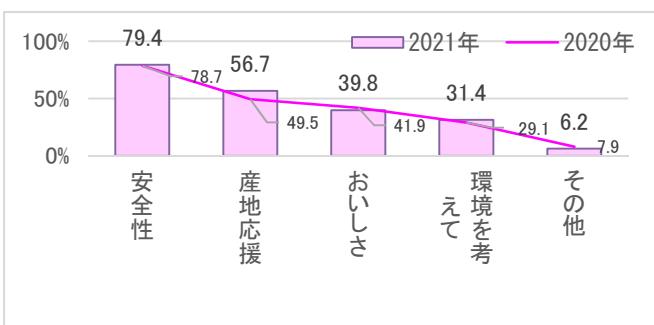
###### ③コア・フードまたはエコ・チャレンジ商品を注文したことがある方へ、選んだ理由をお答えください。(最大3つまで選択可)

###### ④エコ・チャレンジ商品を注文したことがありますか



###### ⑤安全性

- ・4年前からの設問です。コア・フード、エコ・チャレンジとともに認知度は横ばい（コア・フードはおおむね年代が下がるほど認知度が低く、エコ・チャレンジは、40・50代以外の全世代で平均より認知度が低い）で、昨年まで下がり続けていた注文頻度については全て微増しています。コロナ禍における宅配需要のほか、特設ページ（オンライン）による品揃えや特価品の掲載の影響もあることが推察されます。





- 「毎週注文している」はコア・フード、エコ・チャレンジとともに年代が上がるほど高く、コア・フードでは60代以上、エコ・チャレンジでは40代以上で平均より高い結果でした。特に若い世代に、パルシステムの農産品を利用いただくための工夫が引き続き必要です。

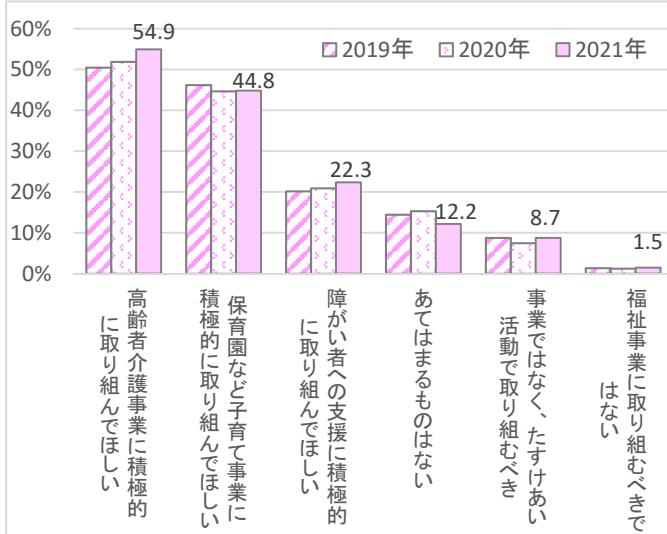
【設問4】(食べものや商品に関して)オンラインで参加できる企画で、関心のある(もしくは参加したい)内容についてお答えください。(複数回答可)



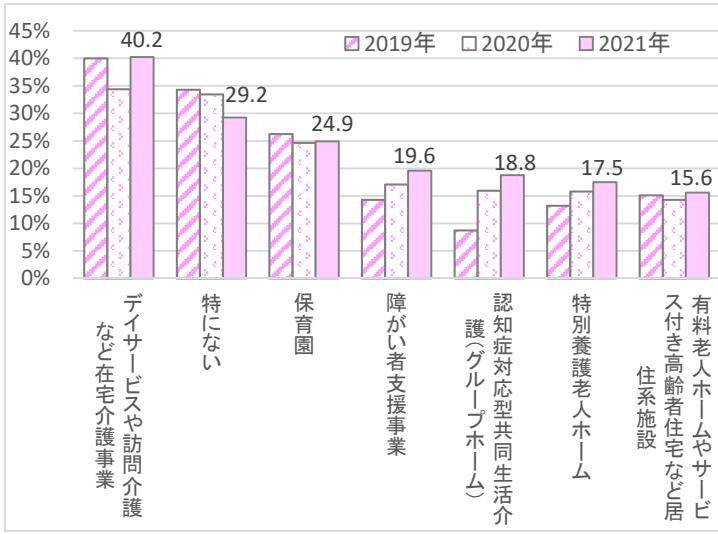
- 昨年からの設問で、昨年とほぼ同様の結果です。年代別も昨年とほぼ同様で「料理教室」「食育」は20~40代、「産地見学」「映画・動画配信」「学習会」は40~60代が全体の平均より高い結果でした。「商品試食」は、おおむね年代が下がるほど高い結果となっています。

【設問5】パルシステム東京が取り組んでいる福祉事業に期待したいものは何ですか

(最大2つまで選択可)



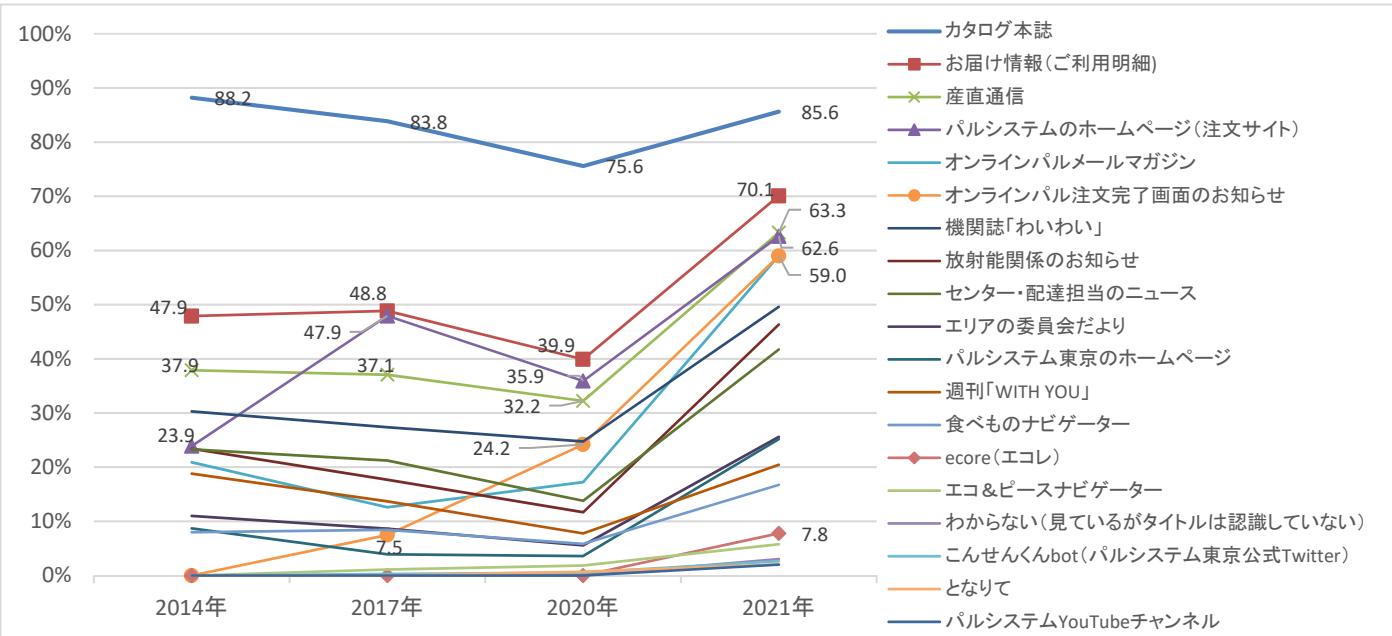
【設問6】現在お住まいのエリアで、パルシステム東京の福祉事業で取り組んでもらいたいサービスはありますか(最大3つまで選択可)



＜福祉事業に関する回答について＞

- 2つとも2014年からの質問で、傾向は変わりません。福祉事業への期待では「高齢者介護事業に積極的に取り組んでほしい」が年々微増、取り組んでもらいたいサービスでは「障がい者支援事業」「グループホーム」「特別養護老人ホーム」が年々微増しています。
- 取り組んでもらいたいサービスの「特にない」は2016年の約40%から年々減少し、今回は約30%でした。全体的に若年世代では福祉サービスについての希望が低いものの「保育園」への希望は高いため、このような結果となりました。

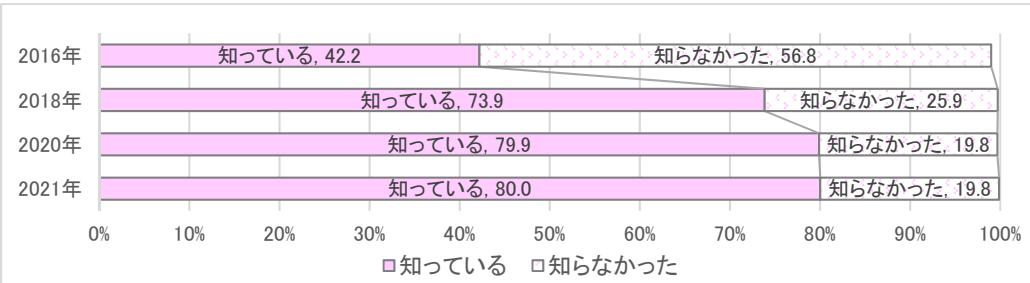
## 【設問7】配付されるチラシやインターネットなどの情報で、知っているものは何ですか（複数回答可）



- 2014年からの質問です。年々各媒体の閲覧率が下がっている為、今年は認知度を確認するために、設問を「よくご覧になるもの」から「知っているもの」に変更しました。結果、すべての媒体で回答数値は上がりました。なお、20・30代は、オンライン関係以外ほぼ全ての媒体の認知度が平均値の半分以下程度、逆に50代は多くの媒体の認知度が他世代より高い結果でした。
- 『ecore』以下の媒体は比較的新しい施策が多く、どの世代でも認知度は1割以下でした。ただし、20・30代については、上記以外でも『週刊 WITH YOU』『食べものナビゲーター』は認知度1割を切っています。

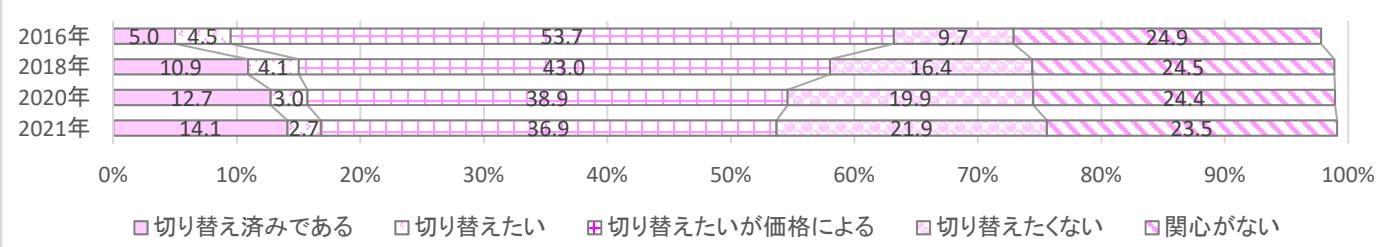
## 【設問8】パルシステムの電力事業について、お答えください

- ①パルシステムが再生可能エネルギー※2を使用した電力事業を始めたことを知っていますか



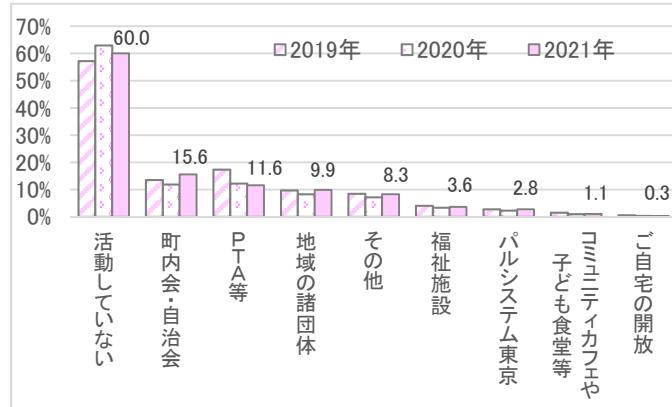
※2 再生可能エネルギー・・・有限で枯渇の危険性を有する石油・石炭などの化石燃料や原子力と対比して、自然環境の中で繰返し起る現象から取り出すエネルギーの総称。

- ②再生可能エネルギーを使用した新電力に切り替えをしたいと思いますか

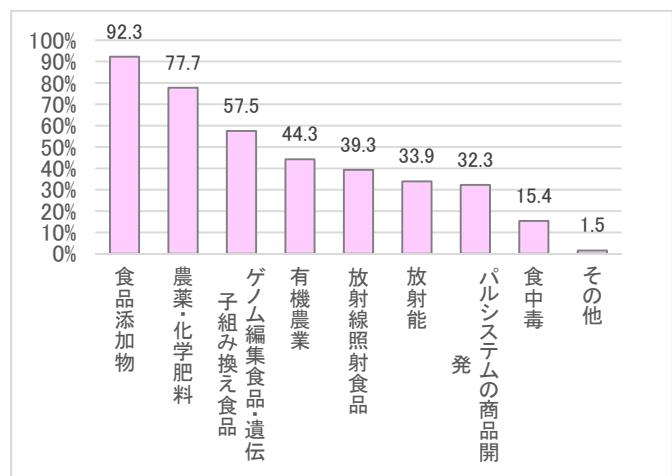


- 2016年から続けている設問で、当初は4割程度だったパルシステムの電力事業についての認知度は倍増し、昨年から今年にかけてはほぼ同数値でした。なお、世代が上がるほどパルシステムの電力事業認知度は上がり、年代が下がるほど認知度は下がりました。前設問の広報媒体認知度との関連も推測されます。
- 新電力への切り替えについては、「切り替えたい」「切り替えたいが価格による」は年々減少、「切り替え済み」「切り替えたくない」は年々増加しています。20・30代では昨年同様3割以上の人人が「関心がない」と回答しています。

【設問9】ご自身が地域で活動している場はどんなところですか（複数回答可）



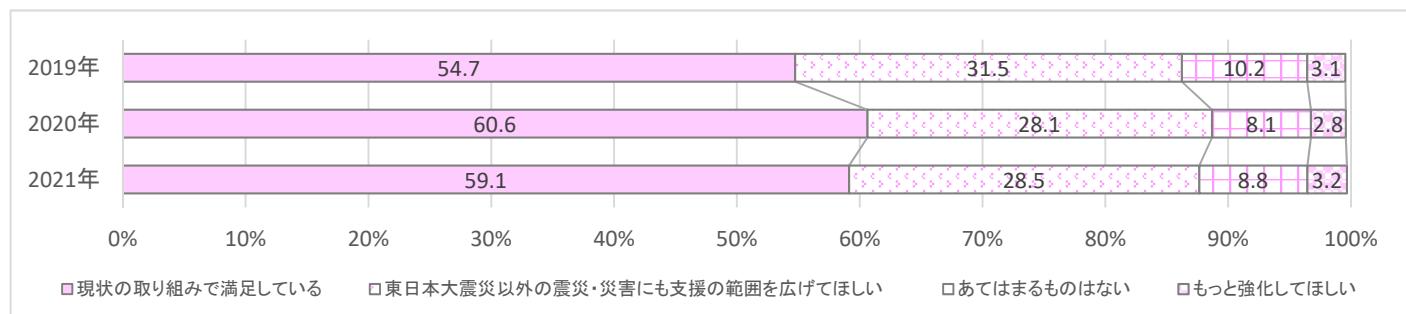
【設問10-2】設問10-1で「食の安全」を選んだ方へ、何に関心がありますか（複数回答可）



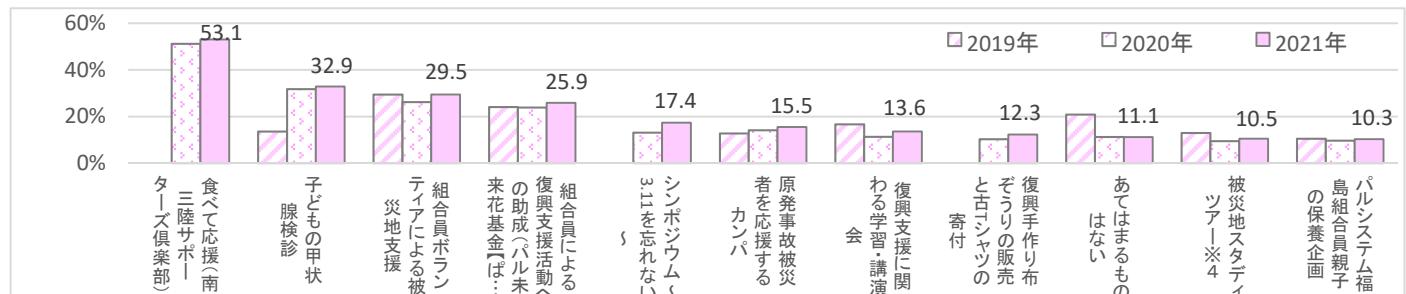
- 【設問9】は2016年からの設問で、ほぼ例年通りの傾向です。「PTA等」以外は年代が上がるほど活動している人が多い結果でした。
- 【設問10-1】では、「子育て」「高齢者福祉」等、対象世代が明確なものはその年代で多く選択されていますが、そうではない「環境」「平和」「被災地支援」では年代が下がるほど選択されていません。
- 【設問10-2】は今年からの設問です。世代間の結果差は大きくありませんが、「ゲノム編集食品」「放射能」は年代が下がるほど関心が低く、「食中毒」は年代が下がるほど関心が高い結果でした。

【設問11】パルシステム東京が取り組む東日本大震災被災者支援活動※3について、どのようなお考えをおもちですか

※3 東日本大震災被災者支援活動・・・パルシステム東京では、「3.11を忘れない」を基本視点に、これまで、組合員ボランティアによる被災地支援や、原発事故被災者を支援するカンパ、福島の親子を対象とする支援（保養・交流）企画、復興支援に関わる学習・講演会、被災地スタディツアー、食べて復興応援など、様々な支援活動に取り組んでいます。



【設問12】パルシステム東京の復興支援活動について、今後も継続して取り組んでほしい活動はありますか（最大3つまで選択可）

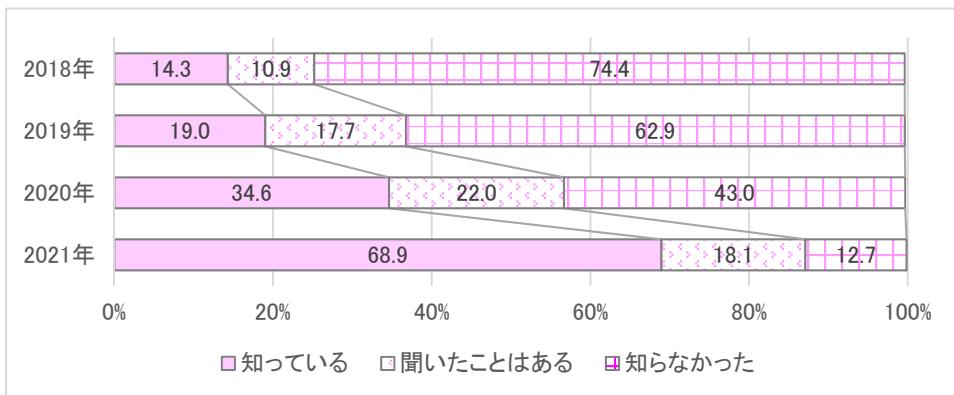


※4 被災地スタディツアー・・・東日本大震災の被災地を訪れ、自らの目で復興の現状と課題を学ぶツアー。私たちにできる支援とは何かを考え、行動するきっかけの場として実施しています。

【設問 11・12】で「あてはまるものはない」を選択したのは 20・30 代が一番多く、回答の選択肢にあてはまるものがない、もしくはパルシステム東京の被災者支援活動内容を知らない可能性も考えられます。

【設問 12】は昨年通りの傾向です。「あてはまるものはない」が年々減少し、その他の項目は全て微増しています。昨年度は東日本大震災発災 10 年で、節目シンポジウムやメディアの影響がある事も推測されます。

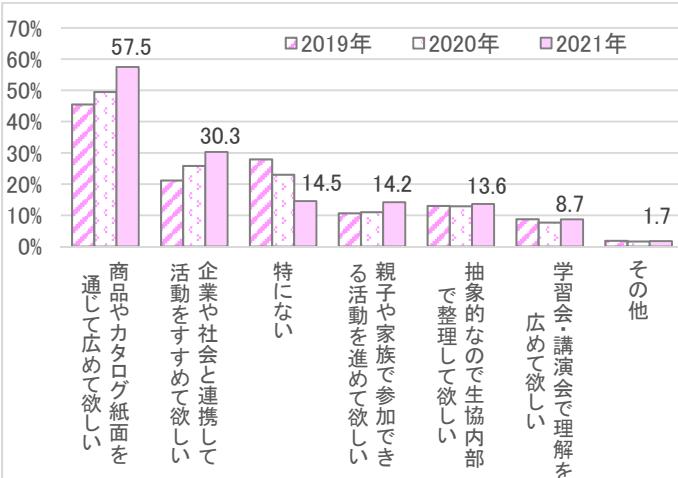
### 【設問 13-1】SDGs※5を知っていますか



※5 SDGs・・・2001 年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標。貧困や飢餓、エネルギー、気候変動など 17 の目標を定めています。パルシステムは、2017 年に「第 1 回ジャパン SDGs アワード」を受賞しました。



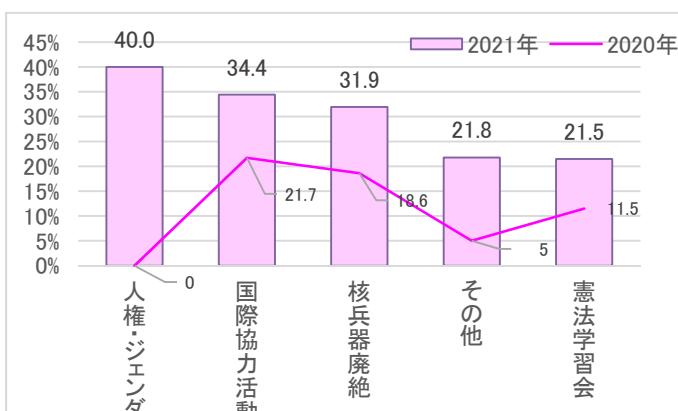
### 【設問 13-2】SDGs と生協活動との関わり方についてお答えください（最大 2 つまで選択可）



- SDGs についての認知度は年々上昇し、比例して生協との関わり方への要望について「特にない」は年々減少（40 代以下で全世代の平均より高いものの減少傾向）、その他の項目は全て年々上昇しています。特に「商品やカタログ紙面を通じて～」「企業や社会と連携して～」の上昇率が高く、それぞれ 3 年前と比べて 10% 前後上昇しています。
- メディアや学校でも取り上げられる機会が増えているので、生協として SDGs の取り組みを広めやすい状況になってきています。

### 【設問 14】平和学習会のテーマとしてどのような企画に参加したいと思いますか。

※パルシステム東京では、平和な共生の世界をめざし、さまざまな活動をすすめています。



- 昨年からの設問で、回答の選択個数の制限をなくし（昨年は 2 つまで選択可）、選択肢に「人権・ジェンダー」を追加しました。
- 結果はグラフの通りですが、「人権・ジェンダー」は年代が下がるほど選択されており、「憲法学習会」「核兵器廃絶」は年代が上がるほど選択されました。「国際協力活動」「その他」は世代間で大きな差はありません。

## 5. おわりに

2011 年から続いているアンケートで、今回は初めて広報も回答もインターネット限定としました。その中でも、SNS やインターネット関連の施策含めて、若年層にパルシステムで行っている政策や商品の背景が伝わっていない結果は変わりませんでした。アンケート結果は次年度方針づくりの参考とさせていただきます。

アンケートに回答いただいた皆様、ありがとうございました。